

令和6年度
一般社団法人静岡県介護福祉士会

第16回 定時総会

一般社団法人静岡県介護福祉士会

日本介護福祉士会倫理綱領

1995年11月17日宣言

前文

私たち介護福祉士は、介護福祉ニーズを有するすべての人々が、住み慣れた地域において安心して老いることができ、そして暮らし続けていくことのできる社会の実現を願っています。

そのため、私たち日本介護福祉士会は、一人ひとりの心豊かな暮らしを支える介護福祉の専門職として、ここに倫理綱領を定め、自らの専門的知識・技術及び倫理的自覚をもって最善の介護福祉サービスの提供に努めます。

(利用者本位、自立支援)

1. 介護福祉士は、すべての人々の基本的人権を擁護し、一人ひとりの住民が心豊かな暮らしと老後が送れるよう利用者本位の立場から自己決定を最大限尊重し、自立に向けた介護福祉サービスを提供していきます。

(専門的サービスの提供)

2. 介護福祉士は、常に専門的知識・技術の研鑽に励むとともに、豊かな感性と的確な判断力を培い、深い洞察力をもって専門的サービスの提供に努めます。

また、介護福祉士は、介護福祉サービスの質的向上に努め、自己の実施した介護福祉サービスについては、常に専門職としての責任を負います。

(プライバシーの保護)

3. 介護福祉士は、プライバシーを保護するため、職務上知り得た個人の情報を守ります。

(総合的サービスの提供と積極的な連携、協力)

4. 介護福祉士は、利用者に最適なサービスを総合的に提供していくため、福祉、医療、保健その他関連する業務に従事する者と積極的な連携を図り、協力して行動します。

(利用者ニーズの代弁)

5. 介護福祉士は、暮らしを支える視点から利用者の真のニーズを受けとめ、それを代弁していくことも重要な役割であると確認したうえで、考え、行動します。

(地域福祉の推進)

6. 介護福祉士は、地域において生じる介護問題を解決していくために、専門職

として常に積極的な態度で住民と接し、介護問題に対する深い理解が得られるよう努めるとともに、その介護力の強化に協力していきます。

(後継者の育成)

7. 介護福祉士は、すべての人々が将来にわたり安心して質の高い介護を受ける権利を享受できるよう、介護福祉士に関する教育水準の向上と後継者の育成に力を注ぎます。

総会次第

1. 開会あいさつ
2. 会長あいさつ
3. 議長団選出
 - (1) 議長選出
 - (2) 書記並びに議事録署名人選出
 - (3) 議長あいさつ
 - (4) 資格審査報告
 - (5) 総会設立宣言
 - (6) 議長より議事運営説明
4. 審議事項
 - 第1号議案 令和5年度事業報告（案）に関する件
 - 第2号議案 令和5年度収支決算報告（案）並びに監査報告に関する件
 - 第3号議案 役員改選（案）に関する件
 - 第4号議案 令和6年度事業計画（案）に関する件
 - 第5号議案 令和6年度収支予算（案）に関する件
5. 議長団退任
6. 閉会あいさつ

【理念】

私たちは、良質な介護を提供するための自己研鑽に努めます。私たちは、介護福祉士と介護に携わる人たちの環境改善に努めます。

【活動指針】

介護福祉士の実践の場での活躍を支えるため、より良い研修の在り方と様々な課題解決に向けた研修等を提案します。また、介護に携わる者の心と体のバランスや職場環境の問題などに寄り添うことを考えていきます。

第1号議案 令和5年度事業報告(案)に関する件

【主旨】

生涯研修制度が構築され、当会の介護チームのリーダー養成も進み、認定介護福祉士が誕生しました。一方、感染症法上第5類に分類される新型コロナウイルスについて介護福祉現場で働く介護職にとっては、まだまだ厳しい状況が想定されます。蓄積された身体的・精神的疲労、更にハラスメント等の問題も大きくなる今、これらの問題にも継続的に向き合っていきます。

また、当会の仲間を増やし、組織力を高め、山積する課題を検討できる組織を目指していきます。さらに県民の介護福祉の充実を目指し、災害対策・支援等についても専門職の視点で関わっていきます。

【目的】

1. 介護に従事する者を支える職能団体となる
2. 介護の質を担保するための研修を提案する
3. 災害対策、支援が対応できる介護福祉士を養成する
4. 組織の力を強くする

【目標】

1. 職能団体として、介護職員等のWLBについて提言出来る
2. 災害対策、支援などの研修の提案や検討ができる介護福祉士を増やしていく
3. 会員の拡大を図る

【活動報告】

1. 生涯研修体系にある介護福祉士基本研修、ファーストステップ研修を実施し、さらに認定介護福祉士養成研修2期生養成をスタートすることができた。研修の実施方法として、感染対策を講じながら対面を中心に行い、出前講座においても本来の訪問の要望が増えてきた。ブロックではオンライン研修も好評であることから、まだまだ感染症による厳しい介護福祉現場の状況があることを再認識した。
2. 災害支援委員会を中心に、石川県介護福祉士会へ義援金支援、日本介護福祉士会からの災害派遣要請に伴い本会の会員から災害ボランティアを仰いだ。
3. 対面による介護の学舎、介護技術コンテスト(10周年記念大会)を開催した。またブロック活動では、会員の交流の機会を設け、会員の関わりを深め共に参加し作り上げる機会となった。

〔委員会〕

1. 組織強化委員会

各種研修、ブロック活動において会の案内の配布、声掛けを行った。

また、ケアコンテスト実施に際し、県内の養成校学生の皆さんにも運営側で協力を得た。

2. 災害支援委員会

災害時のマネジメントやボランティアの育成・派遣など、職能団体としての在り方や実際の対応等を目的に「災害フォーラム」「HUG 訓練研修」「災害支援委員・登録ボランティア勉強会」を下記により実施、委員会をオンラインにて行った。

・第3回災害フォーラム ハイブリッド開催

開催日 11月18日

内容 災害時、被災者が抱えるこまりごとの把握や対応方法、また障害を有する方は何に困っているか事例報告を行い、「地域での災害支援の課題と実行するために」をテーマにグループワークを実施した。

参加人数 27名(うちオンライン10名) 発表者2名

発表者 松山 文紀 氏 (NPO 法人静岡市障害者協会 相談支援専門員)
赤堀 有加 氏 (社会福祉法人静岡市社会福祉協議会)

・避難所運営ゲーム(HUG)をやってみよう

開催日 3月16日

内容 避難所運営ゲーム HUG を使って福祉避難所の利用者の安全を確保しながら、災害時に必要とされる支援を介護福祉士の視点も含め意見交換した。

参加人数 18名

・災害支援委員・登録ボランティア勉強会

開催日 3月16日

内容 介護福祉士としての災害支援の基本的姿勢を踏まえ、能登半島地震災害支援活動、支援の課題等などについてボランティアに行かれた3名から報告された。また、次年度の計画等を情報共有した。

参加人数 19名

3. 障害福祉委員会

障がい福祉施策を理解し、介護の質の向上を目的として研修及び情報交換を行い「高齢化に伴う強度行動障がい者の理解と支援研修」「高齢化に伴う知的障がい者の理解と対応研修」「重度障がい者支援研修」「高齢化に伴う精神障がい者の理解と対応研修」を実施した。

(1) 高齢化に伴う強度行動障がい者の理解と支援研修～自閉スペクトラム症の理解と支援～

開催日 10月9日(月・祝)

内容 強度の行動障がい者を有する障がい者が、安定した生活を送るために大切な役割を担うため、必要な知識と技能の習得を目的として実施した。

受講人数 22名(会員12名 一般10名)

講師 静岡県自閉症協会会長 津田 明夫 氏

(2) 高齢化に伴う知的障がい者の理解と対応研修 ～高齢障がい者を支えるために～

開催日	11月16日(木)
内容	高齢化に伴う知的障がい者の特性を理解し、行動やコミュニケーション等の課題を取り上げ、効果的な支援の在り方について学んだ。
受講人数	22名(会員11名 一般11名)
講師	社会福祉法人ひかりの園理事 相談支援事業所まど 相談支援専門員 高木誠一氏

(3) 重度障がい者の支援研修 ～重症心身障がい児(者)の理解と基礎知識～

開催日	12月16日(土)
内容	重度の心身障がいがあってもその人らしく生きていけること、医療的ケアが必要でも生活を豊かに気持ちよく生活できるよう、身体及び知的能の理解を深めた。事例を通して合理的配慮とは何かを学び、日頃のケアに繋げることを目的に実施した。
受講人数	18名(会員10名 一般8名)
講師	社会福祉法人ふじの郷 法人本部長 小林不二也氏

(4) 高齢化に伴う精神障がい者の理解と対応研修 ～誰もが安心できる社会を目指して～

開催日	2月17日(土)
内容	高齢化に伴う障がい者の重度化や増加、より多様化するニーズに対応するため、新たな知識を身につけ、介護の現場で活かせるように実施した。
受講人数	15名(会員10名 一般5名)
講師	聖隷クリストファー大学 大場 義貴氏

4. 広報委員会

- (1) ホームページを積極的に活用し広く情報を発信した。
- (2) 会報誌 Bonくら～じゅを年2回発行し会員及び県内の特養、老健、障がい者施設にも郵送し情報提供した。
- (3) 広く県民へ周知する機会でもあるフェスタシズウエルに参加した。

5. 倫理委員会

職能団体として公益社団法人日本介護福祉士会で定める倫理綱領及び行動規範を遂行するために委員会を設置する予定としたが、特に問題になる案件もなかったため、開催には至らなかった。

6. 外部評価委員会

県内の地域密着型サービス外部評価対象事業所に対して、法の改正により状況に併せて対応していくこととしたが、概ね例年通り68件の訪問調査を実施した。訪問は感染症拡大防止の観点から調査員一人、2時間程度実施した。

7. ケアコンテスト委員会

10回大会を記念し、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップにて11月23日(土)開催。初めて養成校の学生も実行委員の一員として運営に協力頂いた。10年の歩みとして過去の入賞者からメッセージ、映像で競技の模様を振り返る記念メモリー、「コミュカを高める！」をテーマにミニ講演を実施

施、10周年に花を添えた。競技参加者は13名、参加者施設からの応援もあり、日頃のケアの実力を発揮した。個別援助計画書の作成において静岡県介護福祉士会会長賞、今回は特別賞もあり2施設を表彰した。競技においては県知事賞として1名が授与された。当日の様子はダイジェスト版にてYouTubeにより配信し、多くの方々に視聴頂けるように周知した。

8. 介護の学舎委員会

9月17日(日)プラサヴェルデ(沼津市)を会場にハイブリッドで実施した。テーマ「介護の明るい未来」～それぞれの視点～ 学生「実習をテーマにクイズ」家族・利用者「ヤングケアラーを知る」地域「福祉×旅行⇒共生」人材育成「どうしたら人は育つか」を分科会テーマに事例の報告を交え、意見交換を行った。養成校の学生含め34名、スタッフ16名が参加した。

9. 出前講座委員会

県内の小規模な介護事業所職員が介護の知識・技術を学ぶことで介護の質の向上及び介護職員の職場の定着ができるよう実施した。令和4年度からの12テーマの内、生活支援のテーマでは、参考動画を追加し、視覚的に捉えられるようにした。訪問講義70回、オンライン講義12回、DVDの貸出175回を行った。また、9月に講師研修も実施し、質の担保に努めた。

10. 講師養成委員会

依頼があった事業所等に対して、オンライン講義13件、対面講義15件の事業所に講師を派遣した。そのうち3件は、静岡市、藤枝市から依頼であった。

《講師派遣事業》(抜粋)

(1) TOKAIライフプラス(株)リフレア

開催日 4月18日(火) 内容 「接遇マナー」他10件

講師 秋原 真実

(2) 特別養護老人ホームみはるの丘浮島

開催日 11月23日(木) 内容 「認知症ケア」について 他1件

講師 加藤 浩和

[ブロック活動]

県内を8ブロックの地域に分け担当理事、ブロック長、地域の会員(代議員等)が中心になり、ブロック活動を推進した。地域包括ケアシステムを意識した市町の取組みも視野に入れ、研修や地域との交流を図った。昨年度に引き続き、ミーティングや交流会はオンライン中心、研修はオンライン、対面双方で行った。

《ブロック会議》

■ブロック長会議 7月27日、10月20日 オンラインにて実施

■ブロック長会議 7月27日 ■富士・富士宮 7月26日 ■駿東・田方 6月6日、7月7日、28、8月2日、9月8日、10月3日、11月10日、3月15日 ■熱海・伊東 10月20日 ■中東遠 8月24日、12月11日

■浜松・中東遠合同 7月17日、10月14日

《ブロック研修》

ブロック	実施日	テーマ (研修形式)	講師	会場	参加人数(名)	
					会員	非会員
富士・富士宮	7月26日	オンライン交流会 ～輪を広げよう～	—	—	8	
	2月11日	I部 福祉レクリエーション	倉島 修	多機能型イコイ	18	1
		II部 介護技術 移動・移乗	須田 和枝			
3月2日	仕事の悩みオンライン相談会	—	—	6		
駿東・田方	11月12日	市民すこやかふれあいまつり	—	三島市民体育館	3	
	12月3日	伝えるのではなく伝わる 対人コミュニケーション	中山拓郎 芦川 純	デイサービスセンタ ードウハーベスト	5	2
	1月19日	交流会(potluck party)	—	みしま未来研究所	6	0
	2月18日	アセスメント研修	中村 晴信	(株)かいごラボ	7	1
熱海・伊東	8月16日 8月30日	「認知症ケア」ミニ研修会 (オンライン)	峯田 慶太	配信中伊豆リハビリ テーションセンター	8	6
	10月22日	摂食・嚥下ケア研修会 ハイブリッド研修	茂原 信子	中伊豆リハビリ テーションセンター	10	3
静岡市介護 福祉士会	6月4日	己書体験会	中村 誠愛	特養 白扇閣	16	5
		施設見学会	—			
	10月15日	介護技術基礎オンライン研修 移動・移乗の介助	田中 義行	—	18	14
志太・榛原	9月9日	介護職員が考えるべき 転倒予防の視点 オンライン	植田 裕太郎	—	20	2
	12月2日	食事介助セミナー応用編	中邑 愛	特養 第二開寿園	17	6
	2月17日	拘縮予防に向けた ポジショニング オンライン研修	田中 義行	—	20	2
中東遠 浜松 合同	5月10日 6月21日 7月19日	身体のしくみと機能 (オンライン)	古川 和稔	—	29	3
中東遠	9月30日	介護予防講座(対面)	木本 愛郎 佐々木 夏子	小笠医師会館	14	6
	3月3日	福祉レクリエーション講座	倉島 修	さわやかアリーナ 袋井市総合体育館	15	12
浜松	11月18日	食事介助の基本 ～嚥下を学ぶ～	中島 香代子	クリエート浜松 21 講座室	11	2
	11月26日	北区 DE まつり 出展「高齢者疑似体験」	—	都田総合運動公園	8	
	2月25日	ノーリフトケアを学ぼう	村岡 健史	浜松福祉交流 センター	21	5

[研修委員会・研修事業]

1. 生涯研修制度に沿った研修の実施(公益社団法人日本介護福祉士会認定)

(1) 介護福祉士基本研修

有資格者は介護過程の展開を専門性としその手法が現場で重要になるため、介護過程の展開を中心に、生活支援としての介護の視点や自立支援の考え方について学び、現場実践に活かせる介護福祉士の育成を目的とし4日間で実施。認定介護福祉士を目指すために受講必須のファーストステップ研修の受講要件となる。感染症対策を講じて対面形式で実施した。

会場	実施日	受講者数
シズウエル	7/4、11、8/3、10	38名(修了者35名)

(2) 介護福祉士ファーストステップ研修

基礎的な業務に習熟した介護職員を対象として、的確な判断、対人理解に基づく尊厳を支えるケアが実践でき、小規模チームのリーダーや初任者の指導者として任用することを期待できるレベルの視点や技術を有する職員を育成した。

会場	実施日	受講者数
シズウエル	7/18、8/10、28、9/14、27、10/5、10/19、11/1、13、12/6、1/12、2/1、16、3/4、3/22(全15回)	会員14名 (うち補講者6名) (修了者12名予定)

(3) 認定介護福祉士養成研修

介護福祉士養成課程では学べない新たな知識(医療、リハビリ、福祉用具と住環境、認知症、心理・社会的支援、マネジメント等)修得し多職種との連携・協働を含めた認定介護福祉士として十分な介護実践力を身につけるために、2期生の養成を実施した。

会場	実施日	科目	受講者数
シズウエル	8/5	認定介護福祉士概論	22名
	10/28	生活支援のための運動学	24名
	11/4・5	生活支援のためのリハビリテーション	27名
	12/9	自立に向けた生活をするための支援の実践	27名
	2/23・24	疾病・障害等のある人への生活支援・連携Ⅰ	22名
	3/16・17	疾病・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	23名

(4) 介護福祉士実習指導者講習会

介護福祉士養成カリキュラムの「介護実習Ⅱ」の実習指導者を対象に、必要な専門的知識及び教育方法を習得するために実施した。

会場	実施日	受講者数
シズウエル	8/2、8/13、8/28、9/9	66名(会員13名 非会員53名) 修了者64名

2. 認知症に関する研修

(1) 認知症介護実践研修(実践者研修)県知事指定

高齢者介護の実務者に対し、認知症高齢者の介護に関する実践的研修を実施することにより、認知症介護技術の向上・介護サービスの充実を図った。県内3会場、5日間のカリキュラムで実施した。

会場	実施日	受講者数	場所
三島会場	6月14日～9月14日	32名(会員3名 非会員29名) 修了者 32名	三島商工会議所
浜松会場	8月24日～11月16日	41名(会員6名 非会員35名) 修了者 39名	浜松市福祉交流センター
静岡会場	10月16日～1月15日	58名(会員5名 非会員53名) 修了者 56名	シズウエル

(2) 認知症介護実践研修(実践リーダー研修) 県知事指定

静岡県認定、高齢者介護の実践者が実践研修等で得られた知識、技術をさらに深め、施設又は事業所において、ケアチームを効果的かつ効率的に機能させる能力を有した実践リーダーを養成するため6日間の新カリキュラムにより実施した。

会場	実施日	受講者数
シズウエル	6/7、6/23、7/13、7/24、8/9、10/23、	60名(会員7名 非会員49名) 修了者 56名

(3) 認知症の最新情報研修

ナイトセミナーとしてオンラインにより実施した。認知症施策・支援制度や医療・介護サービスなど今後の動向を伺った。

開催日 11月17日(金)

受講者数 46名(会員34名、非会員12名)

講師 国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター 脳神経内科
臨床研究部長 認知症疾患医療センター長小尾先生

3. 自己研鑽、キャリアアップ研修

(1) ターミナル研修

人生の最終段階を支援するために知識と技術、具体的展開を考えることをサブテーマに実施した。死生観、ACPの意義、看取りケアの実際、グリーフケア等について学んだ。

開催日 2月9日(金)9:30～16:00

受講者数 40名(会員26名、非会員14名)

講師 医療法人財団百葉の会 事業本部 太田恵美氏

(2) サービス提供責任者研修

サービス提供責任者が介護過程の展開を理解し、役割を全うし「利用者の自立支援に向けた介護の提供」「在宅で看取る事の出来る介護の提供」等介護・福祉業界での役割確立と、よりレベルの高い訪問介護計画書の作成を目指し実施した。

開催日 9月23日(祝) 10月7日(土)

受講者数 34名(会員3名、非会員31名)

講師 及川ゆりこ 宮澤素子

(3) 感染症対策研修 「介護福祉現場の感染対策」

福祉現場での感染対策の適切な取り組みは重要な課題であるため、感染症を正しく理解し、感染対策の基礎知識を学び、現場で実践できることを目的に実施した。また、予め感染対策に関する疑問を聞きとり講義で共有した。

開催日 9月18日(祝・月)9:30～16:00

受講者数 33名(会員10名、賛助会員3名、非会員20名)

講師 藤枝市立総合病院 感染症認定看護師 戸塚 美愛子氏 小林 亜紀子氏

(4) 介護過程の展開研修 ―アセスメントの視点を学ぶ―

介護過程の展開に係る基本的な内容を理解する事をねらいとし、利用者の QOL の向上につながるよう、専門職として根拠ある支援ができるようアセスメントの視点を学んだ。

開催日 12月22日(金)9:30～16:00

受講者数 31名(会員13名、非会員18名)

講師 静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 高木 剛氏

(5) LIFE 活用に向けた介護過程実践向上研修

科学的根拠をもった専門性の高い介護サービスに繋がる介護記録を現場で、実践できるようになることを目的に実施した。現場の LIFE 導入、また活用に伴い介護記録の視点やその手順について学び、ケアの質の向上に繋げるための学びとなった。演習を通して情報交換の場とした。

開催日 12月10日(日)9:30～16:00

受講者数 31名(会員10名、非会員21名)

講師 静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 鈴木俊文氏

(6) 次世代リーダー研修

自信をもってリーダーシップを発揮できるよう、介護福祉サービスにおけるマネジメントの基本、リーダーの役割、人材育成、業務改善の視点等の知識や技術を学んだ。

回数	会場	実施日	受講者数	講師
1日目	シズウエル	2/2	22名(会員9名/非会員13名) (修了者19名)	丸山 晃 氏
2日目	シズウエル	2/14		

(7) 介護職員等喀痰吸引等研修

特別養護老人ホームの施設や在宅等で介護職員等が、医師の指示、看護師等と連携を図り喀痰の吸引等の医療行為が安全かつ的確に実施することが出来るよう、知識・技術の習得を目的に実施した。今後、自職場等での実地研修を行い修了予定。

開催日 12月13日～2月8日(オンライン講義6日間・筆記試験1日・演習1日)

受講者数 11名(会員4名、非会員7名)

講師 渡邊浩美氏 蒔田満智子氏 芹澤真由美氏 秋山みゆき氏

(8) 身体拘束廃止推進員養成研修

権利擁護や身体拘束廃止の意義を学び、自職場での実態を把握し、身体拘束廃止取り組み報告を行った。

開催日 9月11日、9月28日、1月12日

受講者数 35名(会員1名、非会員34名) 修了者33名

講師 「認知症の理解と介護」

県認知症高齢者グループホーム連絡協議会副会長 櫻井知世氏
「身体拘束と高齢者権利擁護」 揚野法律事務所 揚野江利子氏
「高齢者の権利擁護と身体拘束廃止」について

NPO法人ホットスペース中原 佐々木炎氏

(9) 身体拘束廃止フォーラム

身体拘束が人に及ぼす数々の弊害や実態等について幅広く意識啓発を図ると共に「身体拘束はやむを得ない」といった固定観念や認識を是正していくため、保健・医療・福祉分野関係者 はもとより利用者家族を中心に広く県民が身体拘束廃止の意義を理解し、より良いケアの実現に向けて実施した。

収録日 1月22日

講演 「高齢者の権利擁護と身体拘束廃止」

NPO 法人メイアイヘルプユー理事 同事務局長 鳥海房枝氏

身体拘束廃止推進員養成研修修了者4名による実践報告

上記の内容を収録し、2月15日から3月12日までYouTube 視聴を行った。

再生回数 1部 1,558回 2部759回 視聴者数 498名

(10) 介護福祉4団体合同研修

毎年、一般社団法人静岡県社会福祉士会、NPO 法人静岡県地域包括・在宅介護支援センター協議会、静岡県介護支援専門員協会、当会4団体により輪番制としている。昨年延期となっていた「メンタルケアとモチベーションアップ」をテーマに高室成幸先生の講演をケアマネ協会担当で開催された。

4. 後継者の育成

(1) 介護福祉士実務者研修

国家試験受験要件でもある本研修を実施することで後継者の育成を行う。三島・静岡の2会場で実施した。

開催日 Aコース

介護過程 8月9日、23日、9月13日、10月4日、18日

医療的ケア 11月6日、11月7日から9日のうち1日受講

Bコース

介護過程 8月20日、9月3日、17日、10月8日、22日

医療的ケア 11月27日、11月28日から29日のうち1日受講

受講者数 Aコース (シズウエル) 修了者22名

Bコース (いづテラス) 修了者10名

(2) 国家資格取得対策

・対策講座

会員講師の協力を得て、出題傾向を検討、オンラインによる集中講座を3日間で福祉人材確保対策事業として実施した。

開催日 11月3日、11月23日、12月23日

受講者数 46名

講師 鈴木哲也、飯塚哲男、長岡紀澄、鍋田弥寿人、山道昇三

・全国一斉筆記模擬試験

日本介護福祉士会で作成する筆記模擬試験で実力を試し、自信を持って国家試験に臨めるよう実施した。

実施日 12月9日(日) 会場 シズウエル
受験者数 31名

[総会・理事会・日本介護福祉士会関連]

1. 定時総会の運営

5月21日静岡県総合社会福祉会館シズウエルにて行った。各協議事項満場一致で可決された。総会に続き、入会20年の表彰を行った。おれんじドア実行委員会代表の丹野智文氏をお招きし「自分で決めて自分で動く」をテーマに記念講演を実施した。

2. 三役会、理事会の運営

三役会の実施 5/16・6/2・8/24・12/12・2/9・3/5 ※2/9のみ対面その他オンライン開催
理事会の実施 6/9・9/1・10/27・12/17・3/10 ※6/9・9/1・10/27 オンライン

3. ワーキング活動の推進

会員から募集しワーキングとして42名の会員が登録。対面研修、オンライン研修等会員の協力体制を整え実施した。

4. 日本介護福祉士会事業への協力

- ・総会への参加(代議員)
- ・令和5年度全国大会、日本介護学会の開催
開催日 11月11日(土)12日(日) 会場:茨城県
- ・委託事業として、技能実習指導員講習を1月29日に実施した。
- ・運営サポーター・ネクスト人材募集の周知に協力した。
- ・全国会長会議の参加 6/15・9/15・12/15・3/15
- ・全国事務局会議の参加 6/20・9/20・12/20・3/20
- ・各種研修、セミナーの周知、参加協力

5. 東海北陸介護福祉士会の連携

東海北陸7県の介護福祉士会により、研修及び会議を実施、情報交換の場とした。(担当:愛知県)
第1回 9/2(土)「学ぼうDX 語ろうアフターコロナの学び方」研修 9/3(日)会議(ハイブリッド)
第2回 3/18(月)オンライン会議

[関係団体・公的機関への協力]

1. 各市町の認定審査会及び障害区分審査会委員の推薦
2. 介護・福祉に関する講座の講師派遣
3. 関係機関への委嘱委員の推薦

【後援協力事業一覧】

関係機関	事業名
公益社団法人静岡県理学療法士会	第26回静岡県理学療法士学会
公益社団法人静岡県作業療法士会	第36回静岡県作業療法学会
静岡リハビリテーション懇話会	第63回静岡リハビリテーション懇話会
静岡県社会福祉人材センター	令和5年度 夏・SHIZUOKA 福祉の就職相談会
静岡県老人福祉施設協議会	第12回静岡県高齢者福祉研究大会
静岡県立大学短期大学部	令和5年度静岡県立大学短期大学部リカレント教育講座
福祉レクネットワーク・ハートフル静岡	令和5年度高齢者のためのケアレクリエーション講座
日本社会事業大学同窓会	社会福祉セミナーin 静岡
一般社団法人食とコミュニケーション研究所	第2回 食とコミュニケーション健康フェア ～歌って笑って元気なココロとカラダづくり～

【委員の委嘱一覧】

関係機関	内容
静岡県	静岡県身体拘束ゼロ作戦推進会議委員 地域包括ケア推進ネットワーク会議 「静岡県長寿社会保険福祉計画推進・策定部会」委員 介護人材確保に関する実務者ワーキンググループ構成員
静岡市	静岡市認知症対策推進協議会委員 静岡市認知症初期集中支援チーム検討委員会委員 静岡市介護認定審査会委員 静岡市障害支援区分認定等審査会委員
浜松市	浜松市介護認定審査会委員
伊豆の国市	伊豆の国市介護認定審査会委員
三島市	三島市介護認定審査会委員
富士宮市	富士宮市介護認定審査会委員 富士宮市障害支援区分認定審査会委員
掛川市	掛川市障害支援区分認定等審査会委員
藤枝市	藤枝市介護認定審査会委員 藤枝市障害支援認定審査会委員 医療・介護連携推進会議委員
富士市	富士市介護認定審査会委員
社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会	静岡県社会福祉人材センター運営委員会 静岡県災害福祉広域支援ネットワーク会議委員
駿東田方地域リハビリテーション 強化推進事業連絡協議会	駿東田方地域リハビリテーション 強化推進事業連絡協議会委員

第2号議案 令和5年度収支決算報告(案)に関する件

令和5年度収支決算書(案)
(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

1.収入の部

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差異	摘要
大・中・小科目				
1.会費収入	5,118,000	4,611,000	507,000	
(1)年会費・会員	4,500,000	4,056,000	444,000	R5年度 継続会員1,293名 新入会員41名 R4年度以前 18名
(2)年会費・新卒者	6,000	0	6,000	
(3)年会費・賛助会費	600,000	540,000	60,000	18事業所
(4)準会員会費	12,000	15,000	△ 3,000	
2.事業収入	41,024,500	39,398,112	1,626,388	
(1)委員会	15,290,000	16,021,077	△ 731,077	
障がい福祉委員会	500,000	589,964	△ 89,964	助成事業 4研修
講師養成委員会(講師認定委員会)	1,200,000	1,190,502	9,498	R4年度請求2件 R5年度請求23件 知的障がい者初任者研修・介護講座
外部評価事業委員会	4,220,000	4,174,000	46,000	68件
ケアコンテスト委員会	1,500,000	1,500,000	0	静岡県委託事業
介護の学舎委員会	170,000	68,000	102,000	会員@2,000×32名 非会員@4,000×1名
介護技術出前講座委員会	7,700,000	8,498,611	△ 798,611	静岡県委託事業
(2)ブロック活動	30,000	78,000	△ 48,000	
研修・交流会等	30,000	78,000	△ 48,000	非会員参加料
(3)研修事業	25,704,500	23,299,035	2,405,465	
介護福祉士基本研修	574,000	616,709	△ 42,709	会員@18,000×32名 非会員@35,000×1名
介護福祉士ファーストステップ研修	1,600,000	642,076	957,924	会員@80,000×8名
認定介護福祉士養成研修	2,112,000	2,268,258	△ 156,258	I期6科目
介護福祉士実習指導者講習会	1,710,000	2,020,784	△ 310,784	会員@20,000×11名 非会員@35,000×51名
認知症介護実践研修(実践者研修)	4,826,000	5,248,103	△ 422,103	会員@31,000×16名 非会員@41,000×115名
認知症介護実践研修(実践リーダー研修)	3,460,000	3,598,773	△ 138,773	会員@51,000×7名 非会員@61,000×53名
認知症の最新情報研修	98,000	149,968	△ 51,968	静岡県助成事業
ターミナル研修	220,000	267,721	△ 47,721	静岡県助成事業
サービス提供責任者研修	340,000	395,774	△ 55,774	静岡県助成事業
介護過程 アセスメントの視点を学ぶ	280,000	281,249	△ 1,249	静岡県助成事業
記録研修～LIFE導入に向けて～	280,000	300,172	△ 20,172	静岡県助成事業
次世代リーダー研修	380,000	393,632	△ 13,632	静岡県助成事業
高齢者権利擁護等推進事業	1,600,000	1,609,220	△ 9,220	
介護福祉士実務者研修	4,944,500	3,547,548	1,396,952	Aコース22名 Bコース8名
全国一斉筆模擬試験・集中講座	610,000	616,694	△ 6,694	筆記模試 一般@6,000×25名 賛助会員@3,000×6名 対策講座 静岡県助成事業
技能実習指導員講習会	340,000	300,000	40,000	日介委託事業
介護職員等による喀痰吸引等研修	2,060,000	855,268	1,204,732	@70,000×11名 修了証発行手数料@16,500×5件
感染対策研修	270,000	187,086	82,914	静岡県助成事業
3.雑収入	830,000	743,955	86,045	
4.基本財産取崩収入	0	0	0	
当期収入合計 (A)	46,972,500	44,753,067	2,219,433	
前期繰越金	39,634,984	39,634,984	0	
収入合計 (B)	86,607,484	84,388,051	2,219,433	

2.支出の部

科 目	予算額	決算額	差異	摘要
大・中・小科目				
1.事業費	24,574,000	24,547,029	26,971	
(1)委員会	8,548,000	8,691,801	△ 143,801	
組織強化委員会	150,000	21,253	128,747	委員会、養成校訪問
災害支援委員会	753,000	197,068	555,932	委員会、フォーラム、HUG体験、勉強会等
障がい福祉委員会	123,000	435,501	△ 312,501	4研修実施
広報委員会	480,000	394,953	85,047	委員会、Bonくらーじゅ2回発行
倫理委員会	50,000	0	50,000	
講師養成委員会(講師選定委員会)	750,000	744,345	5,655	
外部評価事業委員会	2,790,000	2,824,032	△ 34,032	調査員1名で実施 68件、現任研修等
ケアコンテスト委員会	1,300,000	1,188,456	111,544	
介護技術出前講座委員会	1,200,000	1,774,159	△ 574,159	
介護の学舎委員会	280,000	433,916	△ 153,916	
通信運搬費	295,000	282,063	12,937	
消耗品費	377,000	396,055	△ 19,055	
(2)ブロック活動	989,000	816,683	172,317	
ブロック会議	100,000	21,239	78,761	ブロック長会議 7月・10月実施
研修・交流会等	755,000	644,654	110,346	
通信運搬費	59,000	62,721	△ 3,721	
消耗品費	75,000	88,069	△ 13,069	
(3)研修事業	15,037,000	15,038,545	△ 1,545	
介護福祉士基本研修	360,000	342,191	17,809	
介護福祉士ファーストステップ研修	1,200,000	1,019,558	180,442	
認定介護福祉士養成研修	1,400,000	1,874,631	△ 474,631	
介護福祉士実習指導者講習会	770,000	861,914	△ 91,914	
認知症介護実践研修(実践者研修)	2,800,000	2,829,483	△ 29,483	3会場で実施
認知症介護実践研修(実践リーダー研修)	1,410,000	1,241,067	168,933	
認知症の最新情報研修	60,000	89,315	△ 29,315	
ターミナル研修	170,000	190,480	△ 20,480	静岡県助成事業
サービス提供責任者研修	330,000	313,982	16,018	静岡県助成事業
介護過程 アセスメントの視点を学ぶ	170,000	222,962	△ 52,962	静岡県助成事業
記録研修～LIFE導入に向けて～	210,000	239,292	△ 29,292	静岡県助成事業
次世代リーダー研修	290,000	308,249	△ 18,249	静岡県助成事業
高齢者権利擁護等推進事業	890,000	835,799	54,201	静岡県委託事業
介護福祉4団体合同研修	6,000	0	6,000	
介護福祉実務者研修	2,150,000	2,039,059	110,941	
全国一斉模擬試験・集中講座	460,000	520,807	△ 60,807	静岡県助成事業
技能実習指導員講習会	90,000	68,641	21,359	日介委託事業
介護職員等による喀痰吸引等研修	750,000	546,782	203,218	
感染対策研修	170,000	132,879	37,121	静岡県助成事業
通信運搬費	590,000	564,217	25,783	
消耗品費	753,000	792,237	△ 39,237	
委員会費	8,000	5,000	3,000	

2.支出の部

科 目	予算額	決算額	差異	摘要
大・中・小科目				
2.管理費	20,930,300	19,717,696	1,212,604	
事務局員給与	13,320,000	12,738,249	581,751	正規職員2名・パート職員4名
事務所費	1,129,000	1,047,556	81,444	光熱費・駐車場料金含む
通信運搬費	136,000	123,602	12,398	
ソフト維持費	74,800	90,200	△ 15,400	
旅費交通費	360,000	352,060	7,940	通勤費等
会計顧問料	650,100	650,100	0	
事務費(消耗品・印刷等)	175,000	173,554	1,446	
支払手数料	145,000	145,485	△ 485	振込手数料、WEB-PC・コンビニ収納手数料
活動費	100,000	89,026	10,974	
雑費	40,000	38,170	1,830	静岡県・三島市社会福祉協議会、三島商工会議所年会費等
賃借料	1,050,000	1,045,740	4,260	印刷機・複合機等リース料
租税公課	2,000,000	1,428,354	571,646	消費税1,355,700・法人市県民税71,000等
書籍料	38,000	16,720	21,280	ふれあい21購読料
保険料	40,000	32,780	7,220	
交際費	5,000	19,900	△ 14,900	
法定福利費	1,638,000	1,587,026	50,974	社会保険料、雇用保険料
厚生福利費	29,400	39,174	△ 9,774	静岡市勤労者福祉サービス会費
寄付金	0	100,000	△ 100,000	石川県介護福祉士会へ義援金
3.会議費	840,000	853,101	△ 13,101	
総会費	450,000	544,081	△ 94,081	
理事会費	350,000	272,160	77,840	
その他会議費	40,000	36,860	3,140	
4.基本財産取得支出	0	0	0	
5.予備費	500,000	0	500,000	
当期支出合計(C)	46,844,300	45,117,826	1,726,474	
当期収支差額(A)-(C)	128,200	△ 364,759	492,959	
当期繰越収支差額(B)-(C)	39,763,184	39,270,225	492,959	

財産目録
令和6年3月31日現在

(単位:円)

科 目		金 額	
1資産の部			
(1)流動資産		40,168,500	
1)現金預金		28,756,745	
①手元有高	242,954		
②普通預金	28,513,791		
静岡銀行吉田支店 401・・・	5,747,943		
静岡銀行吉田支店 411・・・	5,025,567		
静岡銀行本店 164・・・	857,788		
郵便振替口座 00830-596・・・	640,848		
郵便局総合口座 12320-435・・・	1,281,196		
清水銀行静岡支店 2517・・・	13,644,598		
清水銀行静岡支店 2518・・・	1,315,851		
2)未収金		11,393,055	実践介護技術向上支援事業委託料 高齢者権利擁護等推進事業委託料 福祉人材確保対策事業助成金 講師派遣料
3)前払費用		18,700	R6年度基本研修テキスト
(2)固定資産等		46,278,730	
1)敷金		24,000	駐車場
2)什器備品		4	備忘価格として
3)ソフトウェア		131,560	PCA会計ソフト
4)貯蔵品		169,591	生涯研修手帳・テキスト 介護用品(販売品)
5)基本財産		45,953,575	
①定期預金	45,953,575		
ゆうちょ銀行 52320-942・・・	5,630,000		
静岡銀行 167・・・	26,051,124		
清水銀行 4000・・・	14,272,451		
資産合計		86,447,230	
2負債の部			
(1)流動負債		898,275	
1)未払費用		504,314	R5年度事業費評価員報酬他
2)前受金		232,753	R6年度事業 受講料
3)前受会費		3,000	R6年度 準会員年会費
4)預り金		158,208	R6年3月預かり分 源泉税・市県民税
負債合計		898,275	
正味財産			85,548,955

正味財産増減計算書

令和5年4月1日から 令和6年3月31日まで

(単位:円)

科 目	金額	備考
1 増加の部		
(1)資産増加額	△ 364,075	
基本財産預金増加額	684	定期預金利息
当期収支差額	△ 364,759	
2 減少の部		
(1)資産減少額	71,540	
ソフトウェア減少額	65,780	減価償却
貯蔵品減少額	5,760	介護用品売却
当期正味財産増減額	△ 435,615	
前期繰越正味財産額	85,984,570	
期末正味財産合計額	85,548,955	

1.固定資産等の増減およびその残高は次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貯蔵品	175,351	0	5,760	169,591
什器備品	4	0	0	4
ソフトウェア	197,340	0	65,780	131,560
敷金	24,000	0	0	24,000
定期預金	45,952,891	684	0	45,953,575
合計	46,349,586	684	71,540	46,278,730

2.次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高
手持現金	163,978	242,954
普通預金	29,455,987	28,513,791
その他流動資産	10,596,540	11,411,755
流動負債	581,521	898,275
次期繰越収支差額	39,634,984	39,270,225

監 査 報 告 書

私たち監事は、令和5年度における職務執行状況及び財産状況について監査しました。
以下のとおり報告致します。

1. 監事の監査方法について

監事は、理事会その他重要な会議に出席するほか理事等から業務の報告を聴取、更に重要な決済書類等を閲覧、静岡県介護福祉士会において業務及び財産状況を調査しました。

また、令和6年4月19日同所において会計帳簿調査を行い、収支決算書報告、財産目録、正味財産増減計算書（以下「計算書類」という。）について検討を加えました。




2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は記載すべき事項を正しく記載し、「計算書類」の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、ほぼ令和5年度事業計画に沿って事業展開されたことを認めます。
- (3) 理事の職務遂行に関する不正行為は認められません。

令和 6 年 4 月 19 日

一般社団法人 静岡県介護福祉士会

監 事

小畑 晋也  
大原、みつき 

第3号議案 役員改選(案)に関する件

※敬称略

<退任理事> 須田和枝 高松裕美 小林彰宏

<新理事候補> 石代由子 長岡紀澄 池田友佳 鈴木健太 内山栄介

令和6・7年度一般社団法人静岡県介護福祉士会役員候補者名簿

役名	氏名	所属先
理事	水野 公智	株) 櫻ブレイン 小規模多機能ホーム樹
理事	齋藤 升美	特養・久能の里
理事	増田 知佐子	特養・第二開寿園
理事	佐野 真弓	医療法人喜生会 新富士病院
理事	永井 華織	ケアプランセンター マ・メゾン花水木
理事	長倉 浩之	伊豆の国市大仁地域包括支援センター
理事	宇佐美 真澄	清水町地域包括支援センター
理事	石代 由子	老健・梅名の里
理事	長岡 紀澄	農協共済中伊豆リハビリテーション
理事	櫻井 知世	株) 櫻ブレイン 小規模多機能ホーム樹
理事	飯塚 哲男	社会福祉法人桂 カリタス21居宅介護支援事業所
理事	鍋田 弥寿人	特養・白扇閣
理事	佐藤 葉子	特養・菜の花
理事	池田 友佳	ケアマネジメントサービス瀬名
理事	鈴木 健太	社会福祉法人ひかりの園 浜松協働学舎根洗寮
理事	杉本 洋子	東海文化高等専修学校
理事	榎本 利江	医療法人社団瑞芳会 石垣内科医院あおぞらライフ
理事	小楠 隆義	特養・ふるさと庵
理事	村松 正広	特養・第2砂丘寮
理事	内山 栄介	特養・グリーンヒルズ東山
監事	大原 みつぎ	
監事	山畑 晋也	株) ワールドケアサポート

【理念】

私たちは、良質な介護を提供するための自己研鑽に努めます。私たちは、介護福祉士と介護に携わる人たちの環境改善に努めます。

【活動指針】

介護福祉士の実践の場での活躍を支えるため、より良い研修の在り方と様々な課題解決に向けた研修等を提案します。また、介護に携わる者の心と体のバランスや職場環境の問題などに寄り添うことを考えていきます。

【重点目標】

1. 様々な介護実践の場に必要となる自己研鑽の機会をオンラインや対面など研修のあり方を検討して、生涯研修体系にある研修及び、知識と技術を身に着けるための各種研修を提供します。
2. 介護に携わる者の情報交換の場や仲間が集う場を作り、WLB(ワークライフバランス)や職場の環境問題などを考えていきます。
3. 組織強化を念頭に、交流の場(対面、オンライン)や本会の存在とメリットの啓発活動を行い、入会促進と会員の定着を目指します。

第4号議案 令和6年度事業計画(案)に関する件

【主旨】

生涯研修制度が構築され、当会の介護チームのリーダー養成も進み、認定介護福祉士も誕生しました。一方、介護福祉現場等では身体的・精神的疲労やハラスメント等の問題が山積されており、これらの問題にも継続的に取り組んでまいります。

また、当会の仲間を増やし、組織力を高め、介護福祉現場に山積する課題を検討できる組織を目指していきます。さらに県民の介護福祉の充実を目指し、災害対策・支援等についても専門職の視点で関わっていきます。

【目的】

1. 介護に従事する者を支える職能団体となる
2. 介護の質を担保するために研修を企画、実施、評価をする
3. 災害対策、支援の福祉ニーズに対応できる介護福祉士を養成する
4. 組織の力を強くする

【目標】

1. 職能団体として、介護職員等のWLBについて提言出来る
2. 生涯研修体制と研修の必要性を周知して受講者数を増やす
3. 災害対策、支援などの研修の提案や検討ができる介護福祉士を増やしていく
4. 当会の活性化と仲間作りを目標に会員の拡大を図る

〔委員会〕

1. 組織強化委員会

当会の活性化と会員拡大という目標のために一助を担う委員会である。幅広く会員の協力が得られるよう事業活動へ呼びかけ、更に各種研修、ブロック活動においても入会促進の働きかけを行なっていく。更に後継者育成の一環として養成校との連携を強化し、未来の介護福祉士のサポートを実施する。

2. 災害支援委員会

(1) 委員、災害ボランティアメンバーを拡大する。そのため、委員・登録ボランティアの活動力の向上・育成のために研修を実施する。

(2) 災害フォーラムや委員会主催研修や各ブロックでの研修(派遣)等を企画・調整し会員への災害支援活動への啓発をする。

(3) 県内各ブロックで連携し災害支援活動を実施する。日本介護福祉士会中部地域の介護福祉士会との災害協定の取り組みを実施する。

(4) 県内各関係団体の組織との連携の整備をする。

3. 障がい福祉委員会

障がい福祉施策を理解し、介護の質の向上を目的として研修及び情報交換を行う。今年度から研修委員会で障がい研修として実施していく。

4. 広報委員会

(1) ホームページを積極的に活用、広く情報を発信する。

(2) 会報誌 Bonくら〜じゅを年2回発行する。会員及び県内施設に配布する。

(3) 広く県民へ周知する機会でもあるフェスタシズウエルに参加する。

5. 倫理委員会

職能団体として公益社団法人日本介護福祉士会で定める倫理綱領及び行動規範を遂行するために委員会を設置し、必要に応じて会議を開催する。

6. 外部評価委員会

県内の地域密着型サービス外部評価対象事業所に対して、法の改正により状況に併せて対応していく。訪問に関しては2名、1日調査とし円滑に運営していく。

7. ケアコンテスト委員会

介護職員が日頃身に着けた介護技術を披露することで、技術の高さや専門性を競うことで、介護技術の向上を図ると共に、県民へ介護の魅力を伝え、理解を深めるために県の委託事業として実施する。11月23(土)グランシップで実施予定である。

8. 介護の学舎委員会

「介護の明るい未来」を大テーマに今年は「障がい」と「高齢」を区分することなく、共に学び、共に生きることを目的に開催する。県内養成校との協力し連携して実施していく。10月14日実施予定である。

9. 出前講座委員会

県内の小規模な介護事業所職員が介護の知識・技術を学ぶことで介護の質の向上及び介護職員の職場の定着ができるよう実施する。昨年から対面研修に移行しつつ、介護現場の状況により、オンライン研修、DVD 視聴も行う予定。出前講座の講師として自信を持って講義できるよう講師養成も行う。

10. 講師養成委員会

講師派遣事業の実施に伴い、介護保険サービス事業所の要望に責任持って応えるため、講師がニーズを把握し、介護の質の担保、質の向上に努めるため、講師を養成する。

[ブロック活動]

県内を 8 ブロックに分け担当理事、ブロック長、協力会員(代議員等)が中心になりブロック活動を推進する。地域包括ケアシステムを意識した市町の取り組みも視野に入れていく。今年度は東部、中部、西部の地域での活動も実施する。

[研修委員会・研修事業]

1. 生涯研修制度に沿った研修の実施(公益社団法人日本介護福祉士会認定)

(1) 介護福祉士基本研修

有資格者は介護過程の展開を専門性としその手法が現場で重要になるため、介護過程の展開を中心に、生活支援としての介護の視点や自立支援の考え方について学び、現場実践に活かせる介護福祉士の育成を目的とし4日間で実施する。認定介護福祉士を目指すために受講必須のファーストステップ研修の受講要件となる。7月から実施予定。

(2) 介護福祉士ファーストステップ研修

基礎的な業務に習熟した介護職員を対象として、的確な判断、対人理解に基づく尊厳を支えるケアが実践でき、小規模チームのリーダーや初任者の指導者として任用することを期待できるレベルの視点や技術を有する職員を育成する。今年度は10月～3月、次年度4月～7月の2年間で実施し、受講しやすく変更した。

(3) 認定介護福祉士養成研修

介護福祉士養成課程では学べない新たな知識(医療、リハビリ、福祉用具と住環境、認知症、心理・社会的支援、マネジメント等)を修得し、多職種との連携・協働を含めた認定介護福祉士として十分な介護実践力を身につけるために実施する。今年度は2期生としてI類7科目(17日間)を実施する。

(4) 生涯研修サポート講座

介護福祉士、介護職としてのキャリア(進路、道筋)をプロフィールシートの活用により具現化し、自身を再発見し今後の歩みを考えていく。また、グループワークを通して現場の情報交換、共有する機会とする。

2. 認知症に関する研修

(1) 認知症介護実践研修(実践者研修)県知事指定

高齢者介護の実務者に対し、認知症高齢者の介護に関する実践的研修を実施することにより、認知症介護技術の向上・介護サービスの充実を図る。県内 3 会場、5 日間のカリキュラムにより実施する。

(2) 認知症介護実践研修(実践リーダー研修)県知事指定

静岡県認定、高齢者介護の実践者が実践研修等で得られた知識、技術をさらに深め、施設又は事業所において、ケアチームを効果的かつ効率的に機能させる能力を有した実践リーダーを養成する。7日間のカリキュラムにより実施する。

(3) 認知症の最新情報研修

継続的な研修として実施。小尾先生により最新医療の情報提供の場とする。業務を終えてから、ナイトセミナーとしてオンラインで 11 月に実施する。

3. 自己研鑽研修

(1) 介護福祉士実習指導者講習会

介護福祉士養成カリキュラムの「介護実習Ⅱ」の実習指導者に対して、必要な専門的知識及び教育方法を習得するために実施する。感染症対策を講じて対面により、1 コース(4 日間)実施する。

(2) 介護福祉士実習指導者フォローアップ研修

介護過程の展開、多職種協働や地域における生活支援の実践を踏まえ、介護実習生受入れのための体制づくりのポイントを学ぶ。また、現場での困りごとや悩みを共有し、課題解決に向けて情報や意見交換を行う。

(3) ターミナル研修

ターミナルケアに携わる上で必要な基礎知識や寄り添う介護、また介護職自身やご家族の心のケアについて講義や事例等を通じて学ぶ。対面研修とし2月に実施予定。

(4) サービス提供責任者研修

サービス提供責任者が介護過程の展開を理解し、役割を全うし「利用者の自立支援に向けた介護の提供」「在宅で看取る事の出来る介護の提供」等介護業界での役割確立とよりレベルの高い訪問介護計画書の作成を目指す。2 日間(9・10 月)で実施する。

(5) 介護における生産性の向上セミナー

介護ニーズや介護の専門性が高まる中、業務効率化を図り、人手不足への対応や介護の魅力発信が求められる。介護職員が生き活きと働くことのできる環境を作るため、日々の業務改善(生産性向上)についての目的やその視点、具体的な進め方等を学ぶ。

(6) 感染症対策研修

福祉現場における感染症を理解し、その対策を感染症認定看護師から学ぶ。9 月実施。

(7) 介護職員等喀痰吸引等研修

オンライン講義、対面による演習を行い、医療的ケアの手技を身につけ現場での実践に向け 10 月から実施予定である。

(8) 身体拘束廃止推進員養成研修

権利擁護や身体拘束廃止の意義を学び、自職場での実態を把握し、身体拘束廃止取り組み報告を行う。受講予定者を30名とし、3日間で実施予定である。

(9) 身体拘束廃止フォーラム

身体拘束が人に及ぼす数々の弊害や実態等について幅広く意識啓発を図ると共に「身体拘束はやむを得ない」といった固定観念や認識を是正していくため、保健・医療・福祉分野関係者はもとより利用者家族を中心に広く県民が身体拘束廃止の意義を理解し、より良いケアの実現に向けて、講演や身体拘束廃止推進員養成研修修了者による実践報告等により周知していく。フォーラムの様子は収録後、YouTube 視聴を行う予定である。

(10) 介護福祉4団体合同研修

一般社団法人静岡県社会福祉士会、NPO 法人静岡県地域包括・在宅介護支援センター協議会、静岡県介護支援専門員協会、当会4団体により実施する。今年度は社会福祉士会が担当となり、協力していく。

4. オンライン研修

コロナ禍を経てオンライン研修が日常化したことから、より多くの会員に受講して頂くため、研修を計画、実施していく。「介護現場におけるデジタル化の必要性」「ハラスメント対策」「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」を予定している。

5. 後継者の育成

(1) 介護福祉士実務者研修

国家試験受験要件でもある本研修を実施することで後継者の育成を行う。三島・静岡の2会場で実施予定。

(2) 生活支援技術研修(介護入門編)

介護の基本的研修を実施することで、介護の魅力ややりがいを発信し、介護人材の定着を目指す。指導者の立場の介護福祉士にも再度基本を学ぶ場を提供し、自職場での研修などに結び付け自信を持って指導できるよう研修を実施する。介護の基本(生活支援技術、アセスメントの視点、コミュニケーション等)2日間で実施予定。

(3) 国家資格取得対策

- ・会員講師により出題傾向を検討、オンラインによる集中講座を3日間実施する。
- ・全国一斉筆記模擬試験 日本介護福祉士会で作成する筆記模擬試験で実力を試し、自信を持って、国家試験に臨めるようにする。

6. 障がい者支援研修

(1) 高齢化に伴う知的障がい者の理解と対応研修

高齢化に伴う知的障がい者の特性を理解し、行動やコミュニケーションなどの課題を取り上げ、効果的な支援の在り方について学ぶ。

(2) 高齢化に伴う精神障がい者の理解と対応研修

高齢化に伴う障がい者の重度化や増加、より多様化するニーズに対応するため、新たな知識を身につけ、介護の現場で活かせるように実施する。

(3) 高齢化に伴う自閉症スペクトラム障がいと発達障がい者への理解と対応研修

強度の行動障がいを有する障がい者が、安定した生活を送るための大切な役割を担うため、必要な知識と技能の習得を目的として実施する。

〔総会・理事会・日本介護福祉士会等関連〕

1. 定時総会の運営

第15回定時総会として行い、引き続き入会20年会員の表彰を行う。設立30年記念講演を行う。

2. 三役会、理事会の運営

理事会は日本介護福祉士会の都道府県会長会議前に開催する。8月、12月、3月を予定しているが、更に必要に応じて開催する。三役会は理事会前及び必要に応じて開催する。

3. ワーキング活動の推進

会員からワーキングを募り登録、研修に応じてワーキング依頼をし、マニュアル等準備をして活動を推進する。

4. 日本介護福祉士会事業への協力

- ・定時総会の参加
- ・会長会議、事務局会議の参加
- ・委託事業として、技能実習指導員講習を1月に実施する。
- ・第31回全国大会全国大会、第22回日本介護学会 in しまね
開催日 11月15日(金)16日(土) くにびきメッセにて開催
- ・講師養成研修(リーダー研修)に際し、会長推薦により受講を促していく。
- ・助成事業に申請し取り組む予定である。

5. 東海・北陸介護福祉士会の連携

東海北陸7県介護福祉士会で行われる年2回開催の会議に参加し、情報交換、共有の場とする。

〔関係団体・公的機関への協力〕

1. 各市町の認定審査会及び障害区分審査会委員の推薦
2. 介護・福祉に関する講座の講師派遣
3. 関係機関への委嘱委員の推進

第5号議案 令和6年度収支予算(案)に関する件

令和6年度収支予算書(案)

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

1.収入の部

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	差異	摘要
大・中・小科目				
1.会費収入	4,815,000	5,118,000	△ 303,000	
(1)年会費・会員	4,200,000	4,500,000	△ 300,000	1,400名(継続1,278名/新入会122名)
(2)年会費・新卒者	0	6,000	△ 6,000	
(3)年会費・賛助会費	600,000	600,000	0	@30,000×20事業所
(4)準会員会費	15,000	12,000	3,000	@3,000×5名
2.事業収入	44,706,000	41,024,500	3,681,500	
(1)委員会	15,290,000	15,290,000	0	
障がい支援研修	450,000	500,000	△ 50,000	静岡県助成金(3研修)
講師養成委員会	1,200,000	1,200,000	0	講師養成・講師派遣事業
外部評価事業委員会	4,240,000	4,220,000	20,000	67事業所予定:2名調査
ケアコンテスト委員会	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	静岡県委託料
介護の学舎委員会	0	170,000	△ 170,000	参加費無料
介護技術出前講座委員会	8,400,000	7,700,000	700,000	静岡県委託料
(2)ブロック活動	50,000	30,000	20,000	
研修・交流会等	50,000	30,000	20,000	一般50名@1,000
(3)研修事業	29,366,000	25,704,500	3,661,500	
介護福祉士基本研修	720,000	574,000	146,000	会員36名@20,000
介護福祉士ファーストステップ研修	1,060,000	1,600,000	△ 540,000	@5,300×8科目×25名
認定介護福祉士養成研修	4,080,000	2,112,000	1,968,000	12~3月受講料 @8,000×15日×30名
介護福祉士実習指導者講習会	2,070,000	1,710,000	360,000	会員@22,000×10名 非会員@37,000×50名
認知症介護実践研修(実践者研修)	5,006,000	4,826,000	180,000	会員@31,000×16名 非会員@41,000×110名
認知症介護実践研修(実践リーダー研修)	4,250,000	3,460,000	790,000	会員@62,000×7名 非会員@72,000×53名
認知症の最新情報研修	150,000	98,000	52,000	静岡県助成金 50名
ターミナル研修	270,000	220,000	50,000	静岡県助成金 60名
サービス提供責任者研修	400,000	340,000	60,000	静岡県助成金 36名
介護過程 アセスメントの視点を学ぶ	0	280,000	△ 280,000	実施しない
記録研修~LIFE導入に向けて~	0	280,000	△ 280,000	実施しない
次世代リーダー研修	0	380,000	△ 380,000	実施しない
実習指導者フォローアップ研修	220,000	0	220,000	新規:助成 30名
生活支援技術研修	460,000	0	460,000	新規:助成 30名/2日間
生産性の向上セミナー	270,000	0	270,000	新規:助成 30名
オンライン研修	450,000	0	450,000	新規:助成@150,000×3研修
生涯研修サポート講座	270,000	0	270,000	新規:助成 30名
高齢者権利擁護等推進事業	1,600,000	1,600,000	0	静岡県委託料 30名
介護福祉4団体合同研修	0	0	0	
介護福祉士実務者研修	3,600,000	4,944,500	△ 1,344,500	静岡22名 三島9名
全国一斉筆模擬試験・集中講座	610,000	610,000	0	静岡県助成金460,000 筆記受験料 @5,000×30名 (150,000)
技能実習指導員講習会	300,000	340,000	△ 40,000	日介委託料 60名
委託事業委員会(日介)テキスト作成事業	1,800,000	0	1,800,000	委員(内部12名外部4名)
委託事業委員会(日介)外国人国家試験対策講座	520,000	0	520,000	
介護職員等による喀痰吸引等研修	1,060,000	2,060,000	△ 1,000,000	会員@60,000×6名 一般@70,000×10名
感染対策研修	200,000	270,000	△ 70,000	静岡県助成金 36名
3.雑収入	750,000	830,000	△ 80,000	日介ニュース送付助成(昨年並み)
4.基本財産取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	50,271,000	46,972,500	3,298,500	
前期繰越金	39,270,225	39,634,984	△ 364,759	
収入合計(B)	89,541,225	86,607,484	2,933,741	

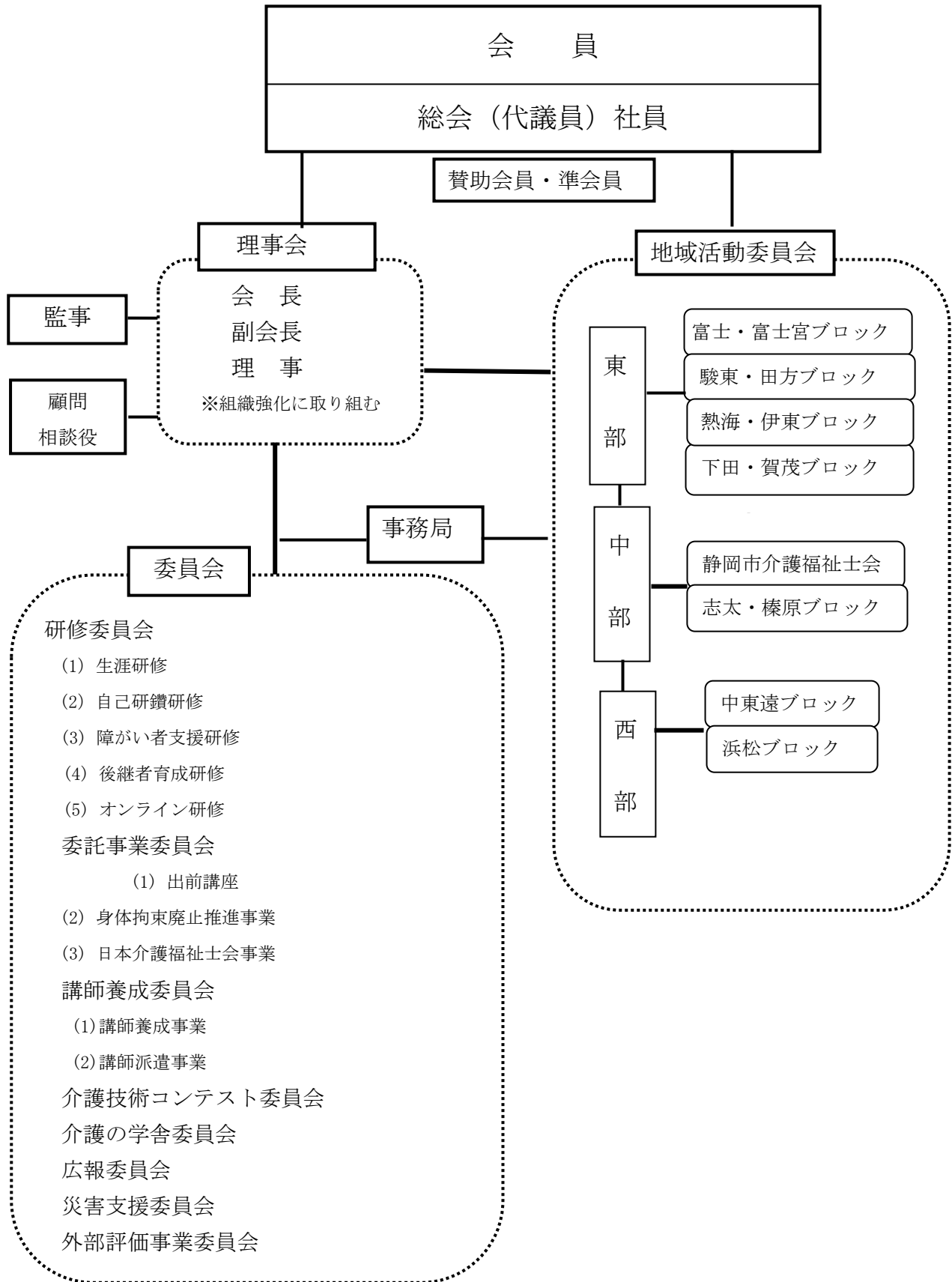
2.支出の部

科 目	予算額	前年度予算額	差異	摘要
大・中・小科目				
1.事業費	28,192,000	24,574,000	3,618,000	
(1)委員会	9,744,000	8,548,000	1,196,000	
組織強化委員会	30,000	150,000	△ 120,000	
災害支援委員会	500,000	753,000	△ 253,000	委員会、フォーラム他
障がい支援研修	300,000	123,000	177,000	3研修
広報委員会	480,000	480,000	0	会報誌2回発行
倫理委員会	10,000	50,000	△ 40,000	
講師養成委員会	800,000	750,000	50,000	講師派遣事業 講師養成
外部評価事業委員会	3,414,000	2,790,000	624,000	人件費含む
ケアコンテスト委員会	1,200,000	1,300,000	△ 100,000	当会負担200,000
介護技術出前講座委員会	1,800,000	1,200,000	600,000	
介護の学舎委員会	450,000	280,000	170,000	当会負担450,000
通信運搬費	277,000	295,000	△ 18,000	
消耗品費	483,000	377,000	106,000	
(2)ブロック活動	1,022,000	989,000	33,000	
ブロック会議	35,000	100,000	△ 65,000	@12,000×3回
研修・交流会等	835,000	755,000	80,000	
通信運搬費	55,000	59,000	△ 4,000	160名以下は80,000円それ以上は1名につき500円加算
消耗品費	97,000	75,000	22,000	
(3)研修事業	17,426,000	15,037,000	2,389,000	
介護福祉士基本研修	350,000	360,000	△ 10,000	
介護福祉士ファーストステップ研修	700,000	1,200,000	△ 500,000	8日間
認定介護福祉士養成研修	2,200,000	1,400,000	800,000	15日間
介護福祉士実習指導者講習会	870,000	770,000	100,000	
認知症介護実践研修(実践者研修)	2,600,000	2,800,000	△ 200,000	
認知症介護実践研修(実践リーダー研修)	1,650,000	1,410,000	240,000	7日間
認知症の最新情報研修	90,000	60,000	30,000	助成申請
ターミナル研修	200,000	170,000	30,000	助成申請
サービス提供責任者研修	310,000	330,000	△ 20,000	助成申請
介護過程 アセスメントの視点を学ぶ	0	170,000	△ 170,000	実施しない
記録研修～LIFE導入に向けて～	0	210,000	△ 210,000	実施しない
次世代リーダー研修	0	290,000	△ 290,000	実施しない
実習指導者フォローアップ研修	170,000	0	170,000	助成 30名
生活支援技術研修	300,000	0	300,000	助成:2日間24名
生産性の向上セミナー	200,000	0	200,000	助成:外部講師
オンライン研修	255,000	0	255,000	助成:@85,000×3研修
生涯研修サポート講座	200,000	0	200,000	助成:30名
高齢者権利擁護等推進事業	850,000	890,000	△ 40,000	
介護福祉4団体合同研修	6,000	6,000	0	協力
介護福祉実務者研修	2,000,000	2,150,000	△ 150,000	
全国一斉模擬試験・集中講座	520,000	460,000	60,000	
技能実習指導員講習会	70,000	90,000	△ 20,000	
委託事業委員会(日介)テキスト作成事業	1,200,000	0	1,200,000	委員会
委託事業委員会(日介)外国人国家資格対策講座	250,000	0	250,000	
介護職員等による喀痰吸引等研修	550,000	750,000	△ 200,000	
感染対策研修	130,000	170,000	△ 40,000	助成申請
通信運搬費	637,000	590,000	47,000	
消耗品費	1,110,000	753,000	357,000	
委員会費	8,000	8,000	0	

2.支出の部

科 目	予算額	前年度予算額	差異	摘要
大・中・小科目				
2.管理費	20,203,300	20,930,300	△ 727,000	
事務局員給与	13,159,000	13,320,000	△ 161,000	給与・賞与
事務所費	1,007,000	1,129,000	△ 122,000	家賃・水道・高熱費
通信運搬費	121,000	136,000	△ 15,000	按分前 電話・ネット・事業所発送費・NHK受信料他
ソフト維持費	75,000	74,800	200	PCA年間保守
旅費交通費	353,000	360,000	△ 7,000	通勤費
会計顧問料	650,100	650,100	0	
事務費(消耗品・印刷等)	210,000	175,000	35,000	PC4台購入
支払手数料	145,000	145,000	0	WEB-PC手数料 コンビニ収納手数料
活動費	90,000	100,000	△ 10,000	
雑費	40,000	40,000	0	
賃借料	1,050,000	1,050,000	0	リース料
租税公課	1,500,000	2,000,000	△ 500,000	消費税中間納付想定
書籍料	17,000	38,000	△ 21,000	
保険料	33,000	40,000	△ 7,000	
交際費	20,000	5,000	15,000	
法定福利費	1,694,000	1,638,000	56,000	社会保険料・雇用保険料他
厚生福利費	39,200	29,400	9,800	ジョイブ
寄付金	0	0	0	
3.会議費	1,000,000	840,000	160,000	
総会費	650,000	450,000	200,000	記念講演・代議員・役員活動費及び交通費
理事会費	310,000	350,000	△ 40,000	オンライン3回・対面2回 交通費90,000 活動費220,000
その他会議費	40,000	40,000	0	
4.基本財産取得支出	0	0	0	
5.予備費	500,000	500,000	0	
当期支出合計(C)	49,895,300	46,844,300	3,051,000	
当期収支差額(A)-(C)	375,700	128,200	247,500	
当期繰越収支差額(B)-(C)	39,645,925	39,763,184	△ 117,259	

一般社団法人静岡県介護福祉士会 組織図



一般社団法人静岡県介護福祉士会 代議員一覧

※任期期間 <令和4年5月16日～令和6年5月総会終了日まで>

NO	ブロック	氏名	NO	ブロック	氏名
1	富士・富士宮 (4名)	石川 千春	26	静岡市介護福祉士会 (12名)	塚本 純一
2		市川 智子	27		堀 清詞
3		中澤 朋子	28		増井 裕子
4		渡邊 和代	29		花村 加奈子
5	駿東・田方 (11名)	鈴木 都志子	30	志太・榛原 (8名)	斎藤 恵美子
6		奥城 猛	31		山田 英和
7		柴田 和之	32		吉田 和史
8		芦川 純	33		松野 友加里
9		中山 拓郎	34		大橋 一良
10		小田 明弘	35		堀田 隆弘
11		内田 清敬	36		小見山 綾乃
12		坂下 裕	37		鈴木 淡
13		杉山 泉	38		磯邊 清孝
14		日吉 佑紀	39		池田 友佳
15			石代 由子		40
16	熱海・伊東 (2名)	石黒 恵子	41	川上 佳代子	
17		長岡 紀澄	42	齊藤 佳香	
18	下田・賀茂 (2名)	森 竜太	43		田立 笑子
19		齋藤 喜久美	44		安形 典子
20	静岡市介護福祉士会	良知 由浩	45	浜 松 (7名)	内山 栄介
21		秋原 真実	46		磯部 利之
22		川守 成太郎	47		戸倉 恭世
23		宮谷 佳亜	48		加茂 伸幸
24		原田 むつみ	49		渥美 益美
25		山道 昇三	50		小野田 ひろ美